

令和7年度 茅ヶ崎市史講座 「太平洋戦争開戦の日講座」

戦争と茅ヶ崎

1941年～1953年

2025年12月7日

栗田 尚弥

はじめに

1931（昭和6）年9月、日本軍は、「満州」（現、中国東北部）において中国軍との軍事衝突事件（柳条湖事件）を引き起こした（満州事変勃発）。さらに、1937年7月、北平（北京）郊外の盧溝橋において再び日中の軍事衝突が発生（盧溝橋事件）、戦闘は中国全土に拡大した。この戦闘は、当時「日華事変」と呼ばれたが、事実上日本と中国の面戦争であった（日中戦争）。

そして、1941年12月、日本軍はイギリス領マレー半島への上陸とハワイ真珠湾のアメリカ太平洋艦隊への実施、英米との戦争に突入した（まもなくオランダにも宣戦布告）。日本は、ドイツ、イタリアなどの枢軸国側の一員として第2次世界大戦に参戦することになったのである（太平洋戦争、アジア太平洋戦争）。

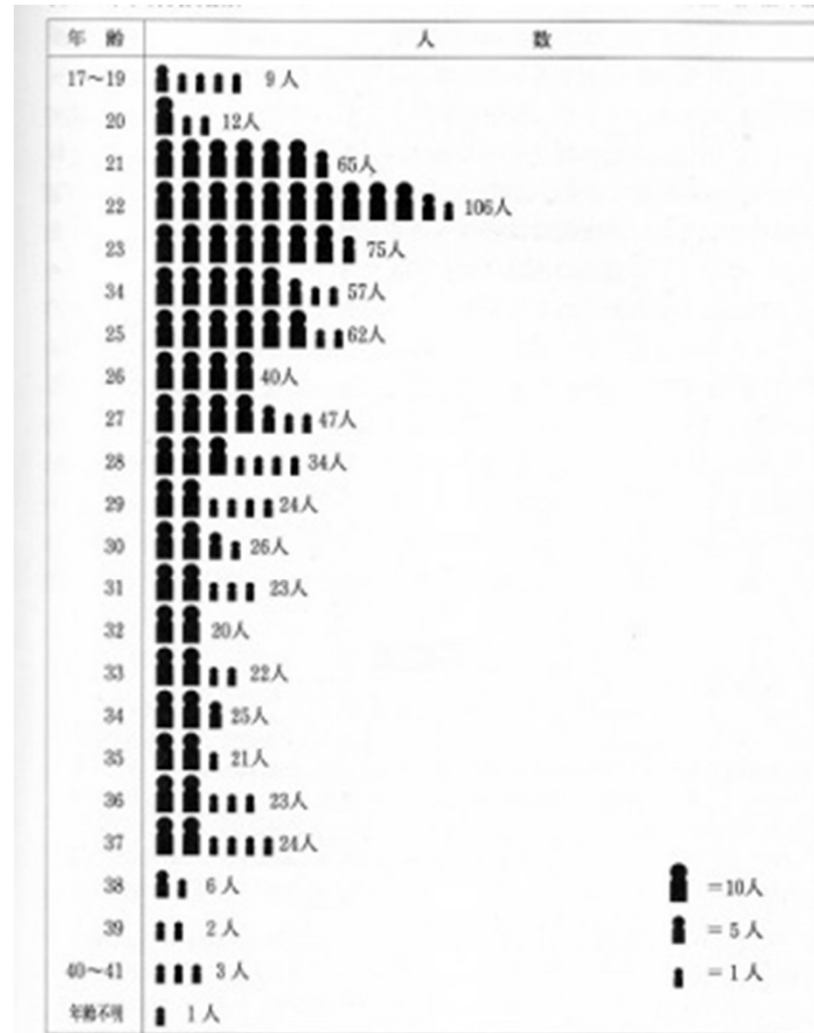
1945年8月、日本の降伏により第2次大戦は終結したが、この5年後には戦争が勃発する（朝鮮戦争、1950～53年）。米軍（国連軍）の兵站基地となった日本も、この戦争と無関係ではなかった。

第2次大戦期、朝鮮戦争期の茅ヶ崎はどういう状況にあったのであろうか、写真を中心にあらためて当時を振り返ってみよう。

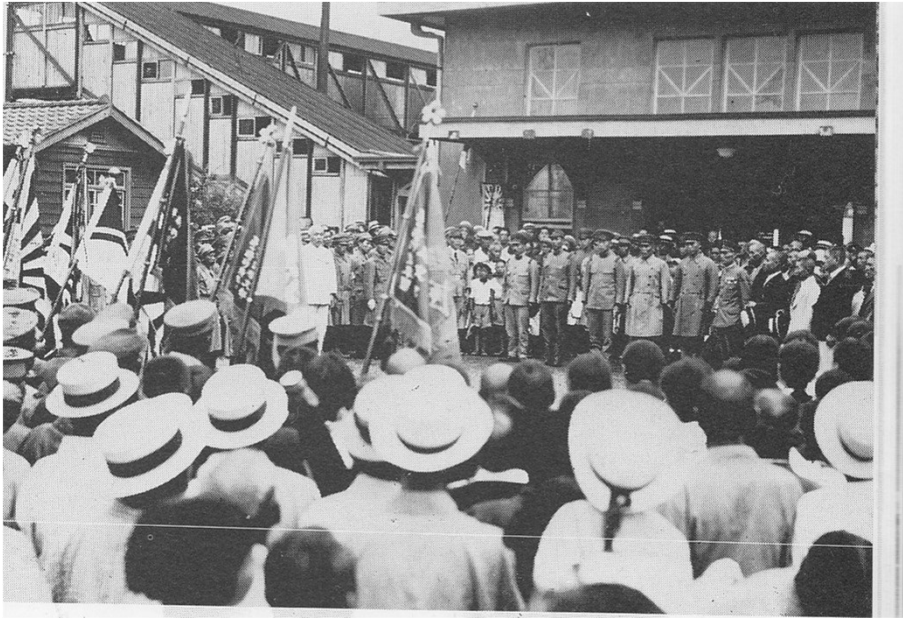
1、動員された人々

①兵士として

1937（昭和12）年に始まる日中戦争から太平洋戦争にかけて、茅ヶ崎においても多くの人々が戦場に動員された。そのうち727人が故郷に戻ることが出来なかった。平均没年齢は26.6歳。その多くは、フィリピン、ニューギニア、ビルマ、沖縄等故郷を遠く離れた戦場でなくなった。



出典：平山孝通「日中戦争・太平洋戦争における茅ヶ崎市域出身戦没者の分析」『茅ヶ崎市史研究』第16号80頁より柴田貴行作成。
 注：この表は年齢別の戦没者数を表しています。■=10人、■=5人、■=1人で人数を表しました。20代前半の戦没者数が多いことがわかります。



茅ヶ崎駅で送られる出征兵士（1939年）

学徒出陣（『写真集 茅ヶ崎』より）





中国戦線にて

無言の凱旋、小出村の村葬



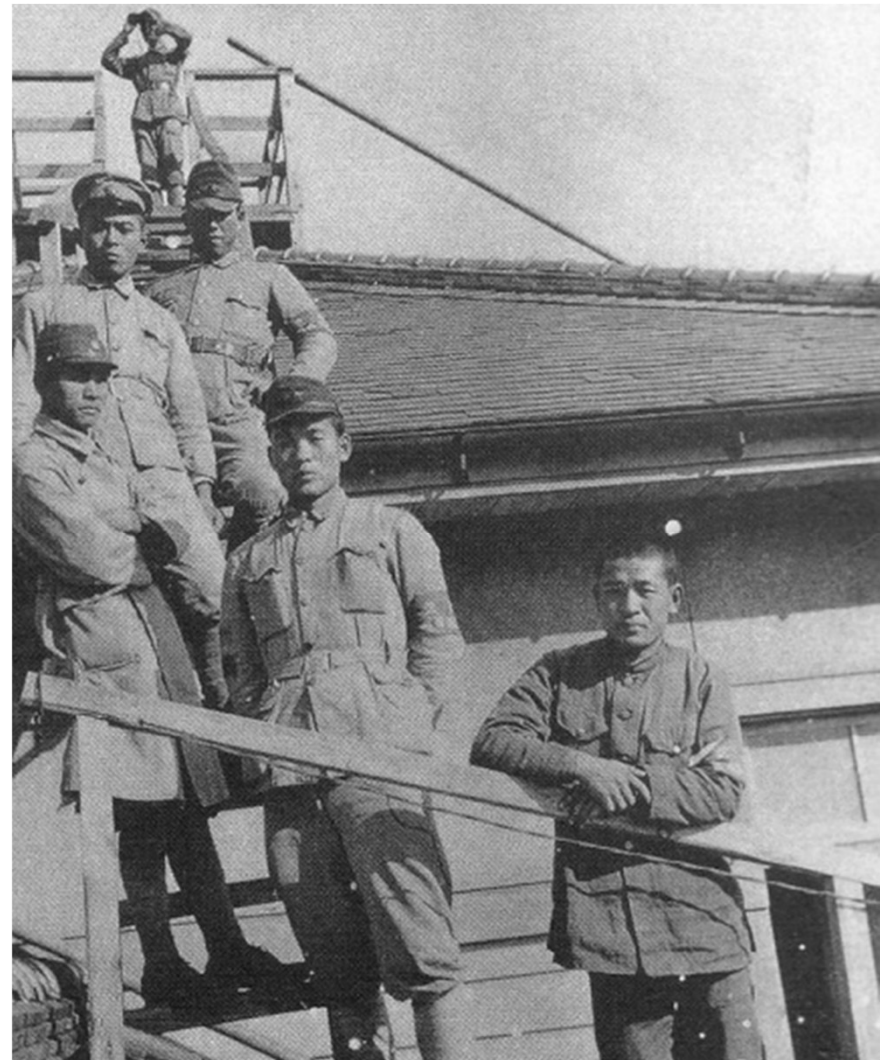
1945年8月15日、「終戦」を知らせる昭和天皇の「玉音」がラジオから流れた。兵士達は帰郷への期待の念を膨らませた。しかし、彼らの多くは「捕虜」としての生活を余儀なくされた。そして、そのなかには、シベリヤに送られ、その地で没したのもあった。



山口富三『思い出の幾山河』より

②市民の動員

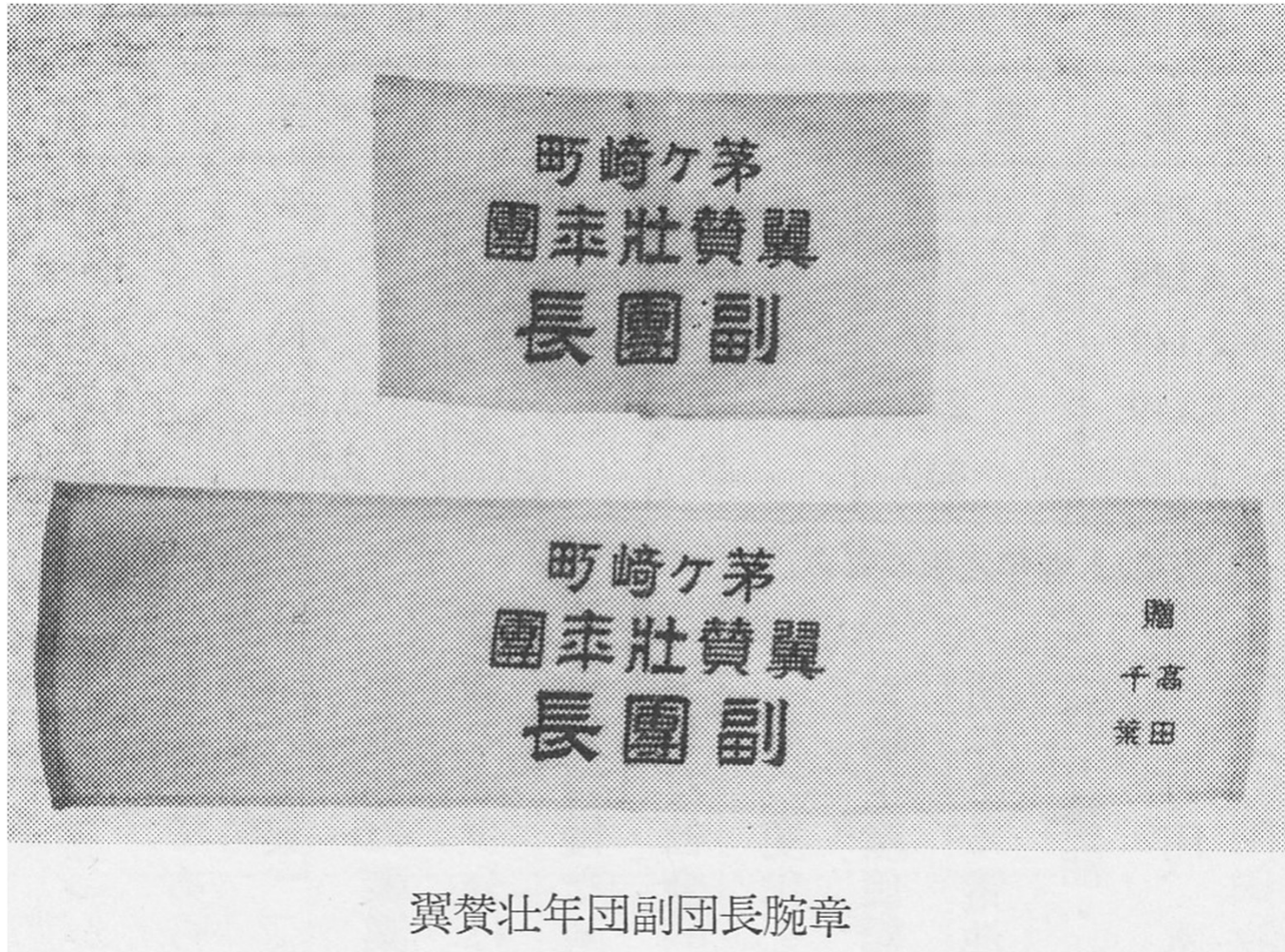
戦争に動員されたのは、兵士となった人々だけではなくではなかった。日中戦争勃発後、市民の統合が進み、女性や老人、児童や生徒を含む一般市民も「銃後の戦士」として動員されたのであった。



防空監視哨

(1)体制翼賛会と翼賛壮年団

- 1940年10月、「公事結社」大政翼賛会成立。
- 同年12月、県知事を支部長として大政翼賛会神奈川県支部。
- 翌年、茅ヶ崎支部（支部長、青木雄司町長）
↓ 実践部隊として
- 1942年1月、大日本翼賛壮年団成立。
- 同年3月、神奈川県翼賛壮年団
- 同月、茅ヶ崎町翼賛壮年団→1942年4月の翼賛総選挙で活躍。



(『茅ヶ崎市史』4、より)

(2)町内会、部落会、隣組

1940年、茅ヶ崎町内30の区をもとに、町内会35、部落会15、隣組443を組織化、区が町内会聯合会を兼ねる。

「万民翼賛ノ本旨ニ則リ住民共同ノ任務ヲ遂行スルト共ニ国策ヲ徹底セシメ国政並ニ統制經濟ノ円滑ナル運用ヲ図」（「部落会・町内会規約」）→警防・保健衛生、行政事務連絡、配給、供出、出征兵士の壮行などで戦時体制の基底部分を支える。連絡手段として「回覧板」。

1943年、町内会部落会は、市制・町村制の改正により、法制化→茅ヶ崎、1944年2月に、町内会及町内会聯合会設置規定→区制廃止、町内会再編成74、聯合会は12。

(3)各種団体の動員－青年団、在郷軍人会、警防団、婦人会（愛国婦人会と国防婦人会→大日本婦人会に統一）



在郷軍人会茅ヶ崎町分会

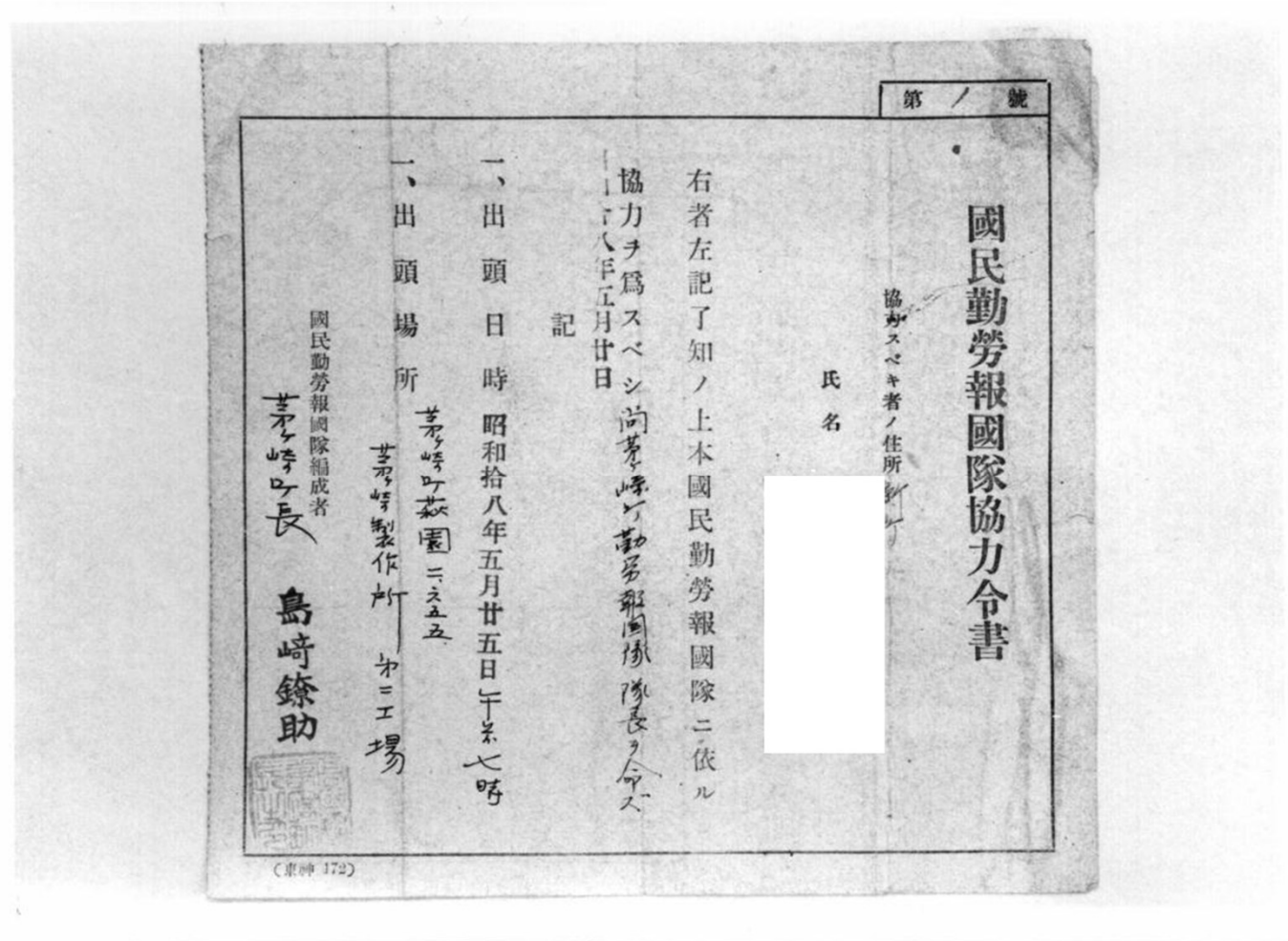


円蔵寺の乃木大将像の前に集合した国防婦人会員



婦人会の防空演習、『写真集 茅ヶ崎』より





国民勤勞報告隊協力令書

・ 学生、児童も動員。



鶴嶺国民学校での馬糧採集

2、軍需工場と軍施設

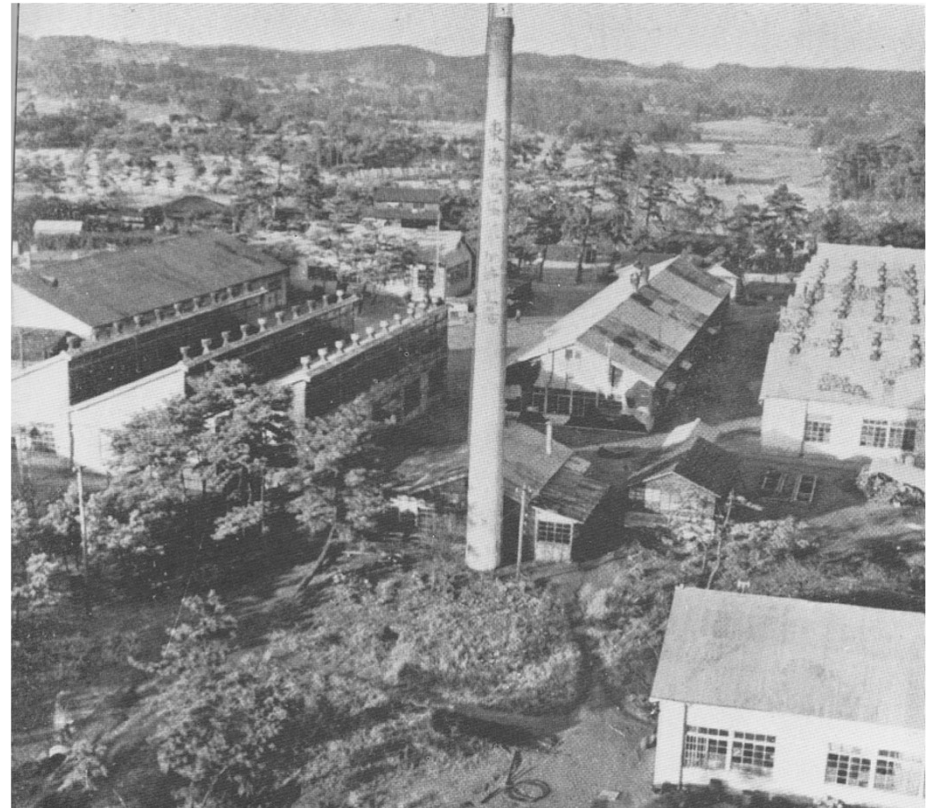
皮肉なことに、戦後の茅ヶ崎の発展は戦時体制下つくられた。なぜなら、満州事変から太平洋戦争にかけてのいわゆる「15年戦争」の期間、工業の発展にともない、京浜地区に隣接し、市場に近く通運に便利であり、さらに工場拡大に必要な土地と安定した労働力が見込める茅ヶ崎、藤沢などの湘南地区には、軍需産業を中心に多くの工場が進出したからである。

また、明治時代から続く辻堂海軍演習場も様々な訓練、実験が行われる近代的演習場となり、海軍電測学校茅ヶ崎実習所、須賀砲台、萩園高射砲陣地などの軍施設も新たに造られることになる。

①軍需工場の進出

日中戦争勃発後、満州事変を契機に、茅ヶ崎に進出した代表的、軍需工場。

- 茅ヶ崎製作所（37年、今宿）
- 東海電極（38年、菱沼）
- 日東製作所（39年、茅ヶ崎）
- 東洋カーボン（39年、円蔵）



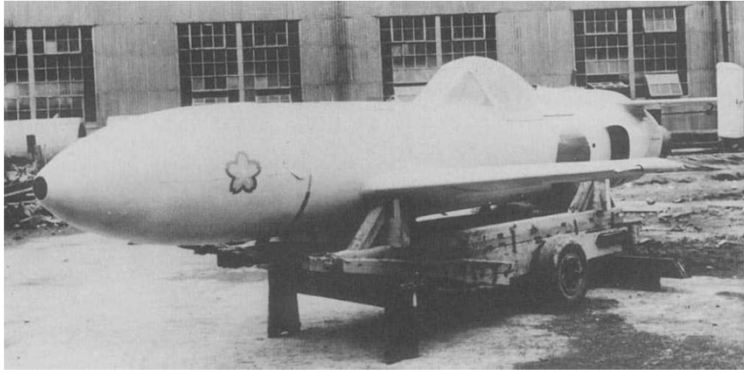
東海電極茅ヶ崎工場

- 特に、1937年に市内今宿に設立された茅ヶ崎製作所は、太平洋戦争以前から軍からの依頼により各種軍需製品を製作していたが、43年に軍指定工場となり、プロペラや木造タンカーなどを作成。さらに戦争末期には、特攻兵器「桜花」やB29迎撃の新兵器「震電」の開発にも関係した。

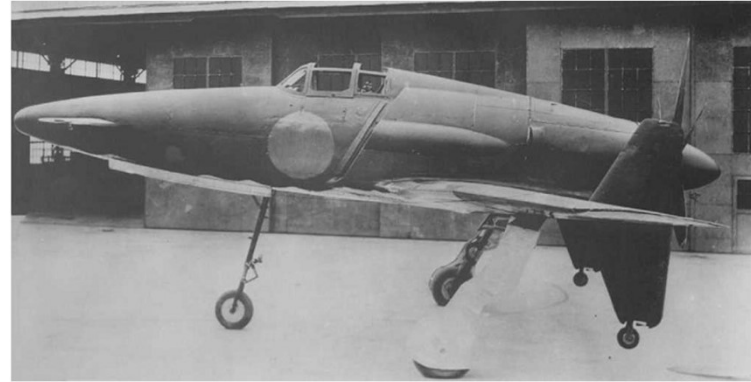


茅ヶ崎製作所全景

ロケット特攻機(人間爆弾)「桜花」
茅ヶ崎製作所でも機体が制作された。



局地戦闘機「震電」。茅ヶ崎製作所で木型実験グライダーが制作された。



なぜ→



②軍事施設

(1) 辻堂演習場



終戦直後米軍が撮影した辻堂演習場



辻堂演習場での陸戦隊の演習



辻堂演習場でも実験された噴進砲（ロケット兵器）

3、海軍、南湖院を買収

(「高橋誠一日記」より)

- (昭和20年) 5月13日 (日)

午後三時頃南湖院より電話ありて海軍砲術学校より南湖院買収の事について来院、相談ありとの事で早速に行く、仮契約書に立会人として調印する、土地建物を共に買収する事に決定す

- 5月20日 (日)

海軍より土地建物、物件の調査に来る

- 5月30日 (水)

午後四時半頃高田重正君来訪、南湖院後始末について懇談す、大体意見一致、故高田院長の名を汚さないようにせねばならぬ



東洋一の結核療養施設「南湖院」も軍に接収された。



迷彩が施された南湖院（大島登輝夫氏筆）

大島英夫『南湖院』茅ヶ崎市史ブックレット5、より



海岸には新しい砲台も（元米伍長、ハイマン氏撮影）

4、ゾルゲ事件と茅ヶ崎



情報
→

尾崎秀実



命令
→

リヒャルト・ゾルゲ

マックス・クラウゼン



茅ヶ崎から情報打電
↓
モスクワ (赤軍情報部)

5、茅ヶ崎の空襲

2・16～17 空母艦載機による関東一円の空襲
－茅ヶ崎製作所機銃掃射（死者1名）

4・1 辻堂の住友製鋼爆撃（31発）

7・6 茅ヶ崎製作所爆撃負傷者あり

7・16 平塚大空襲

7・30 小型機による機銃掃射

7・31 艦載機辻堂爆撃

8・13 艦載機十間坂鉄道線路北側に爆弾投下
（死者1名）

茅ヶ崎停車場に停車中の電車に機銃掃射
（死者1名）



辻堂空襲（7/31）

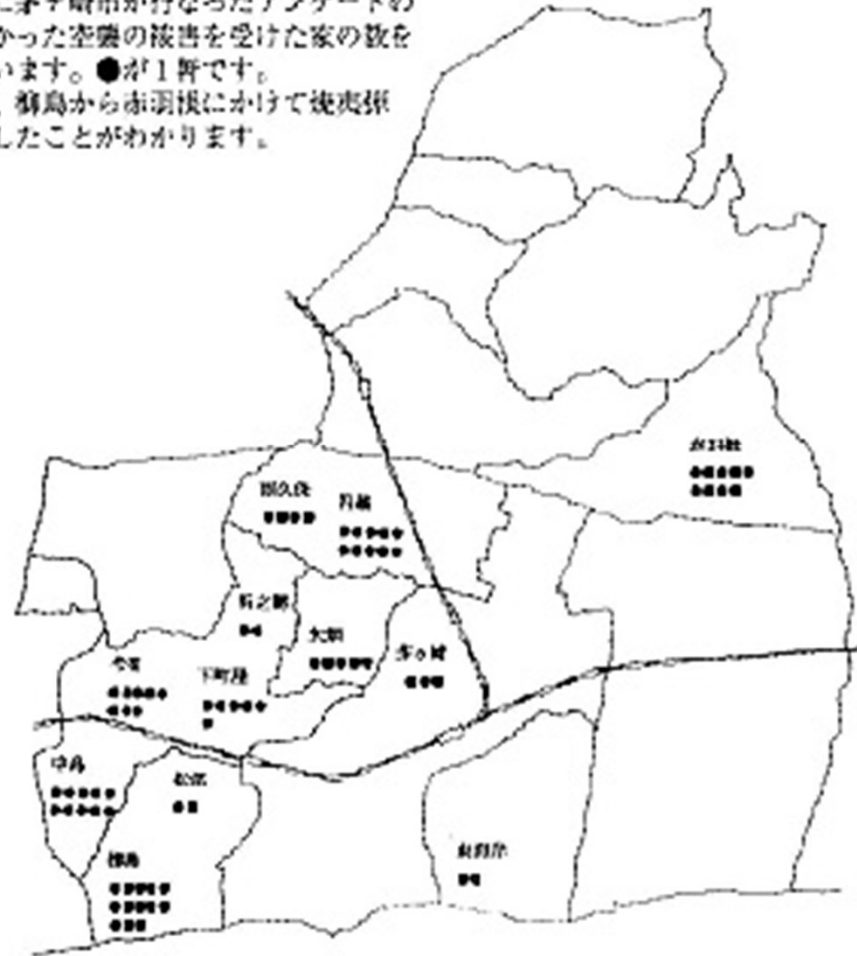
(1) 平塚空襲

7月16日のB29（第20航空軍）による平塚空襲では、茅ヶ崎でも住宅焼失182、死亡10名、重症12名、罹災者554世帯1285名の被害。

－しかし米空軍軍資料には非罹災都市のひとつとされる（臨機の目標、「偶然の」爆撃）。

出典：向井孝允「茅ヶ崎の空襲アンケート報告」
（『茅ヶ崎市史研究』第19号70頁）より柴田貴行が作成。

注：1994年に茅ヶ崎市が行なったアンケートの結果わかった空襲の被害を受けた家の数を示しています。●が1軒です。
B29が、蘇島から赤羽根にかけて後戻りを繰り返したことがわかります。





平塚周辺ターゲット図〈米軍作成〉

(2) 8月13日の空襲

空母ハンコックを母艦とする
F6F、F4U、ヘルダイバー爆
撃機、アベンジャー雷撃機が
横須賀、平塚、東京東芝工場
を目標に飛来。その際、茅ヶ
崎もヘルダイバーの空襲を受
ける。 一目標は？

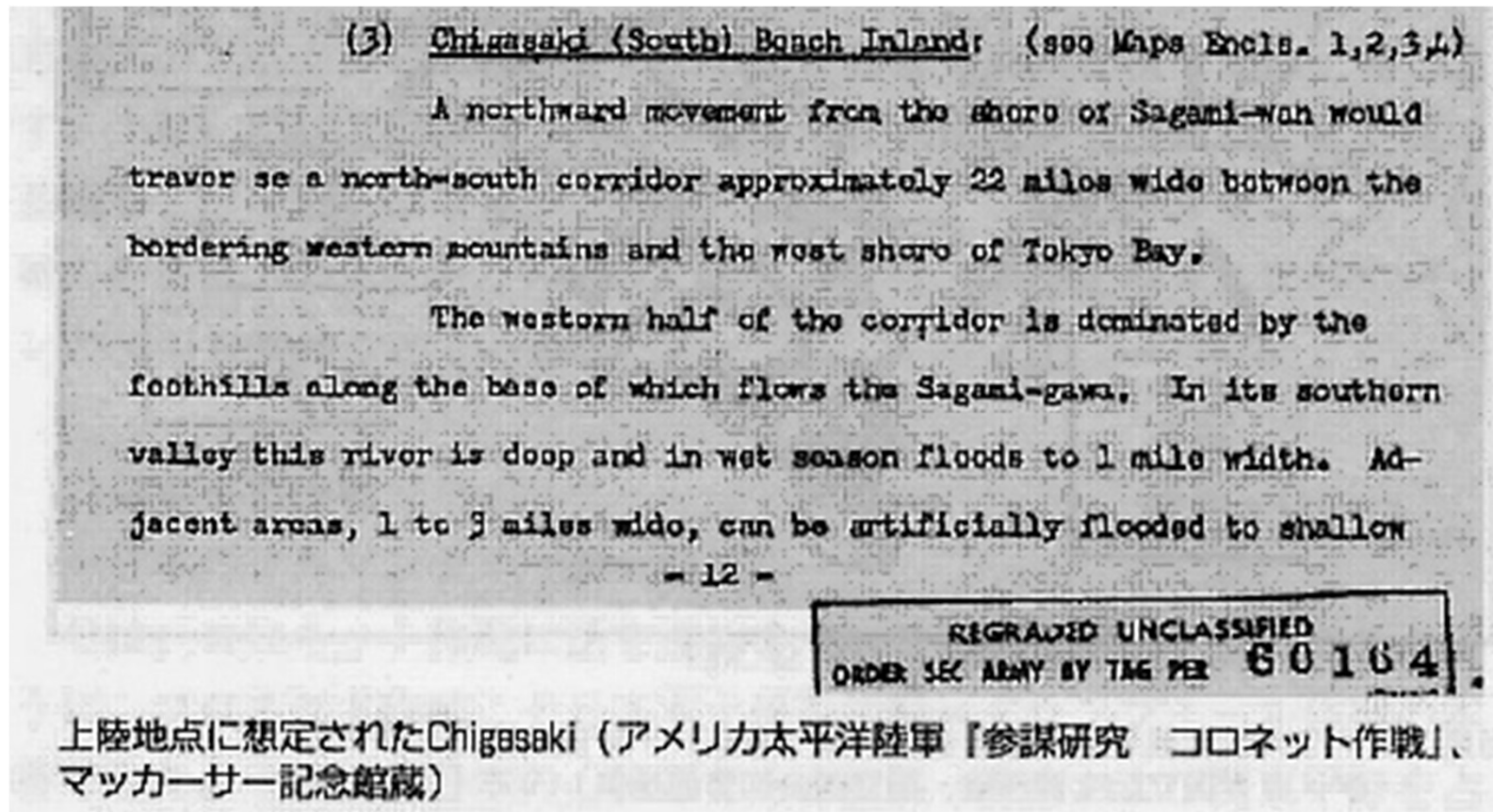


MALONEY could not see the target and placed his bomb on a large U-shaped 3 story building in Chigasaki. HILSABECK couldn't see the target and dropped on the town of Hiratsuka, causing an explosion in a large building in town. He strafed a bridge on his pull out. KING also lost the target in the cloud cover and haze. He recognized Yokosuka under him and dropped his bomb and fired his rockets into the town from level flight at 5,000 feet. He retired in a hurry but observed no fire from the Yokosuka guns.

Only WHITEFORD and SKINNER

機長はマロニー（少佐もしくは大尉か）。
目標を見つけることが出来なかったので、
大きなU字型の建造物を目標に爆撃する。
—U字型の建造物とは？

6、コロネット作戦（1946年3月1日実施予定）と本土防衛

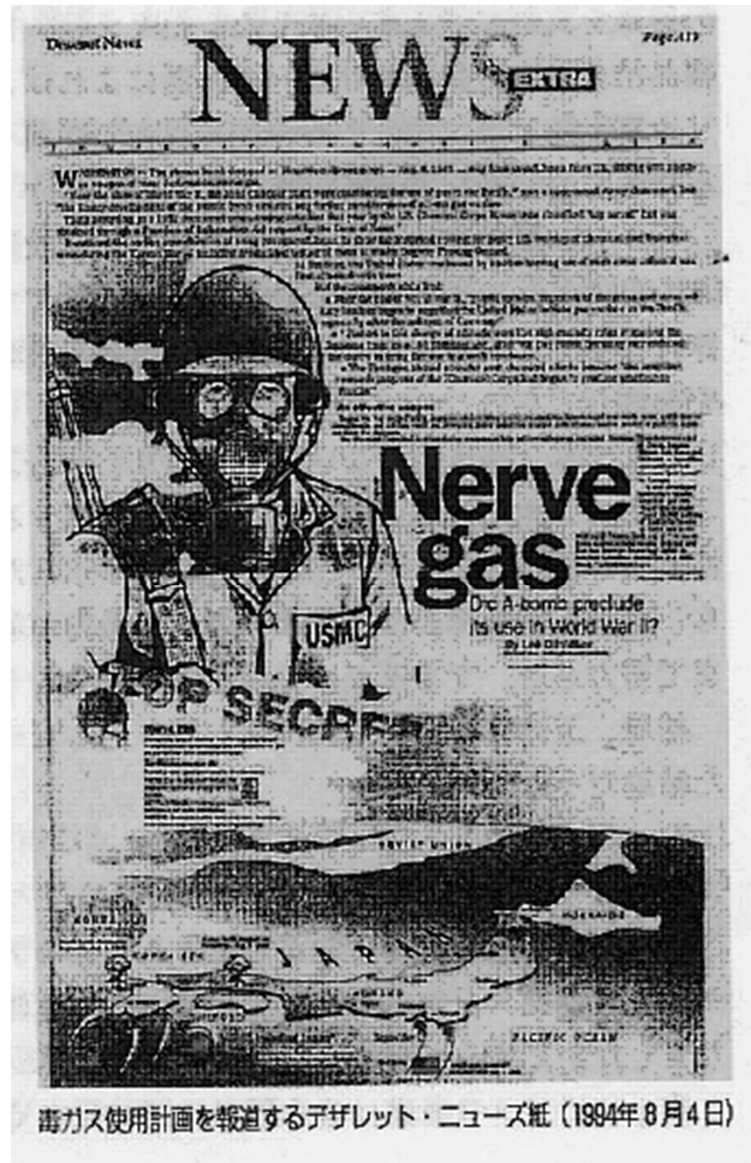


100万を超す動員兵力

	兵員 (人)	車輛 (輛)
湘南上陸部隊 (上陸当日)	陸上 292,090	36,802
	航空 8,914	2,248
	合計 301,004	39,050
九十九里上陸部隊 (上陸当日)	陸上 226,959	30,780
	航空 14,367	3,485
	合計 241,326	34,265
上陸当日総計	542,330	74,315
コロネット作戦総計	1,171,646	222,514

出典：アメリカ太平洋陸軍【参謀研究 コロネット作戦】(『茅ヶ崎市史 現代2』19~21頁)より作成。

毒ガスサリン使用計画



毒ガス使用計画を報道するデザート・ニュース紙（1918年8月4日）

・日本大本営は、本土上陸を予想していたのか？

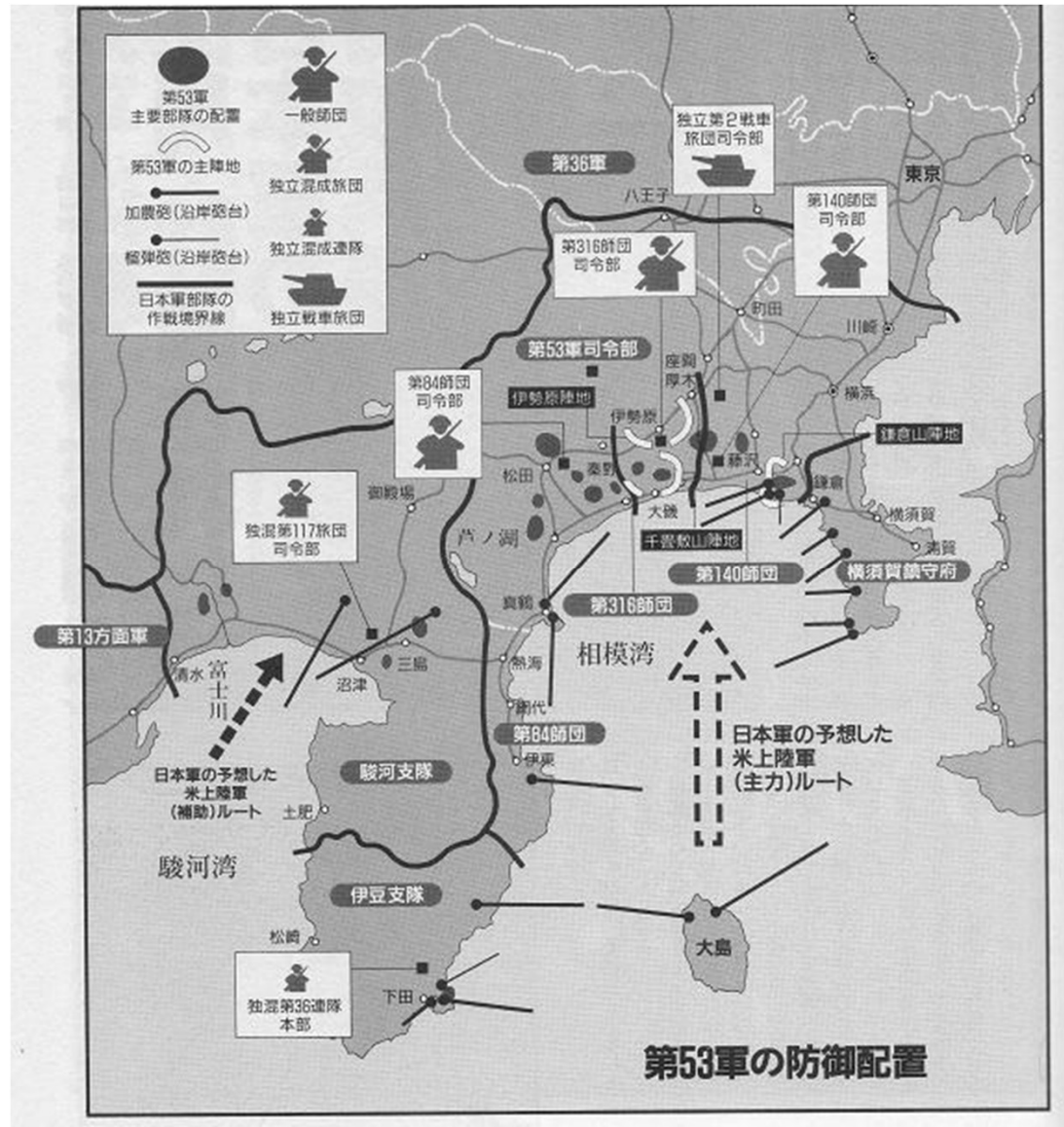
→もちろん、予想していた。

スローガンとしての「本土決戦」。

防衛作戦として「決号作戦」。

関東の防衛は「決三号作戦」。

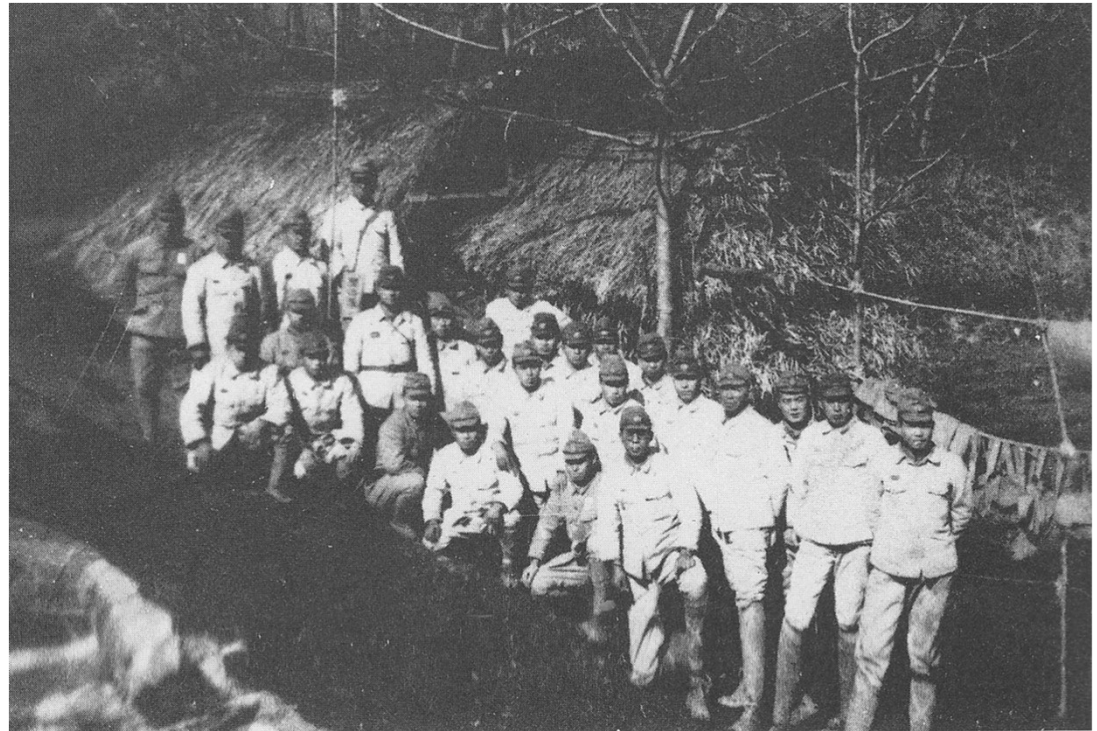
ただし、主上陸地点は、九十九里を想定
千葉県には精鋭部隊、湘南には…



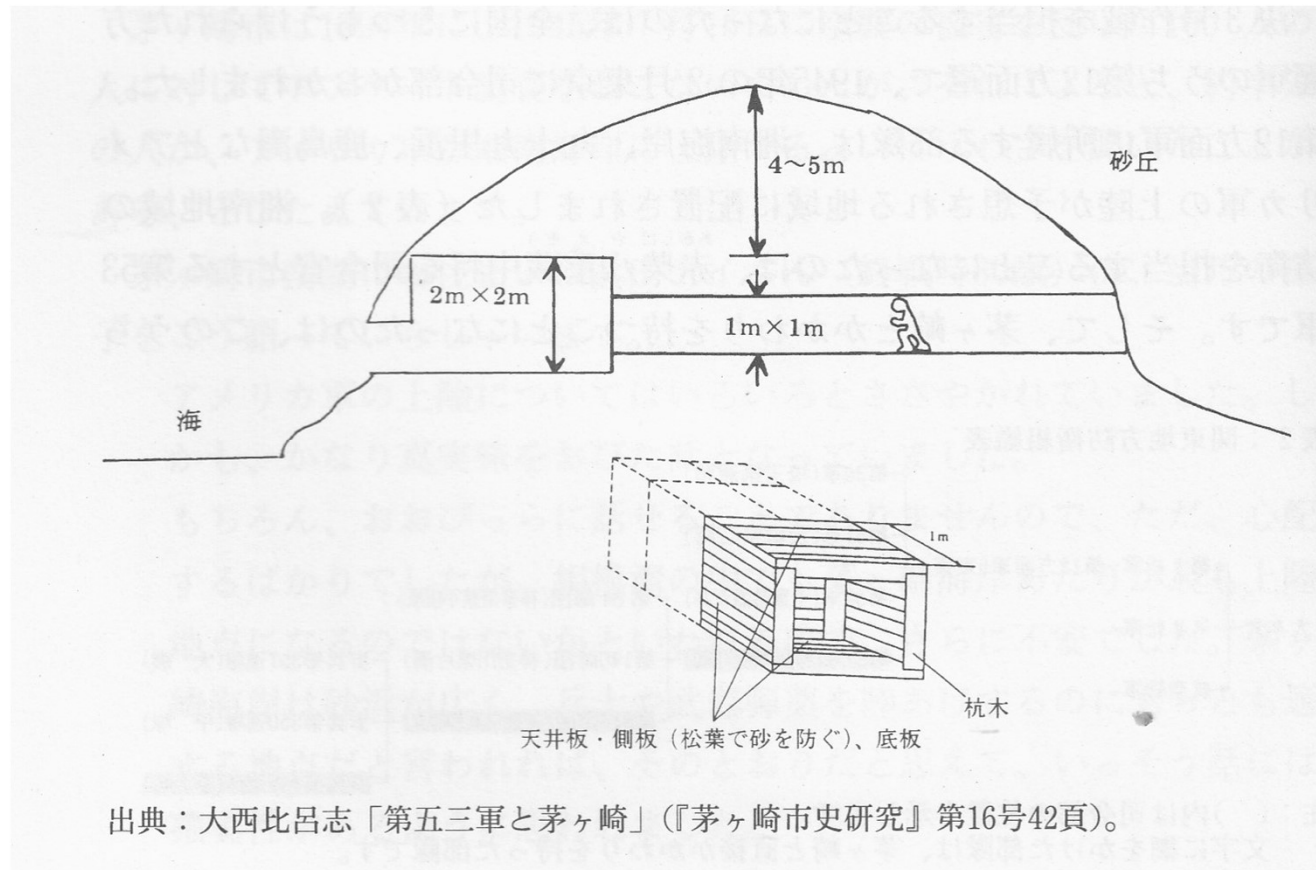
武器の劣勢をどう補うか？→「ここに敵が上陸してきたら、全部敵の戦車の下敷きになる。1人1人が特攻だ。」（第53軍兵士より聞き取り）

→水際玉砕作戦。

「陸の有終の美を飾りたい」→元大本営参謀H中佐談。



兵士達は米軍の上陸に備えて、海岸陣地を構築したが…





兵器の劣勢を補うために、特攻兵器の使用も検討された。

さらに「一億総玉砕」体制のもとで…

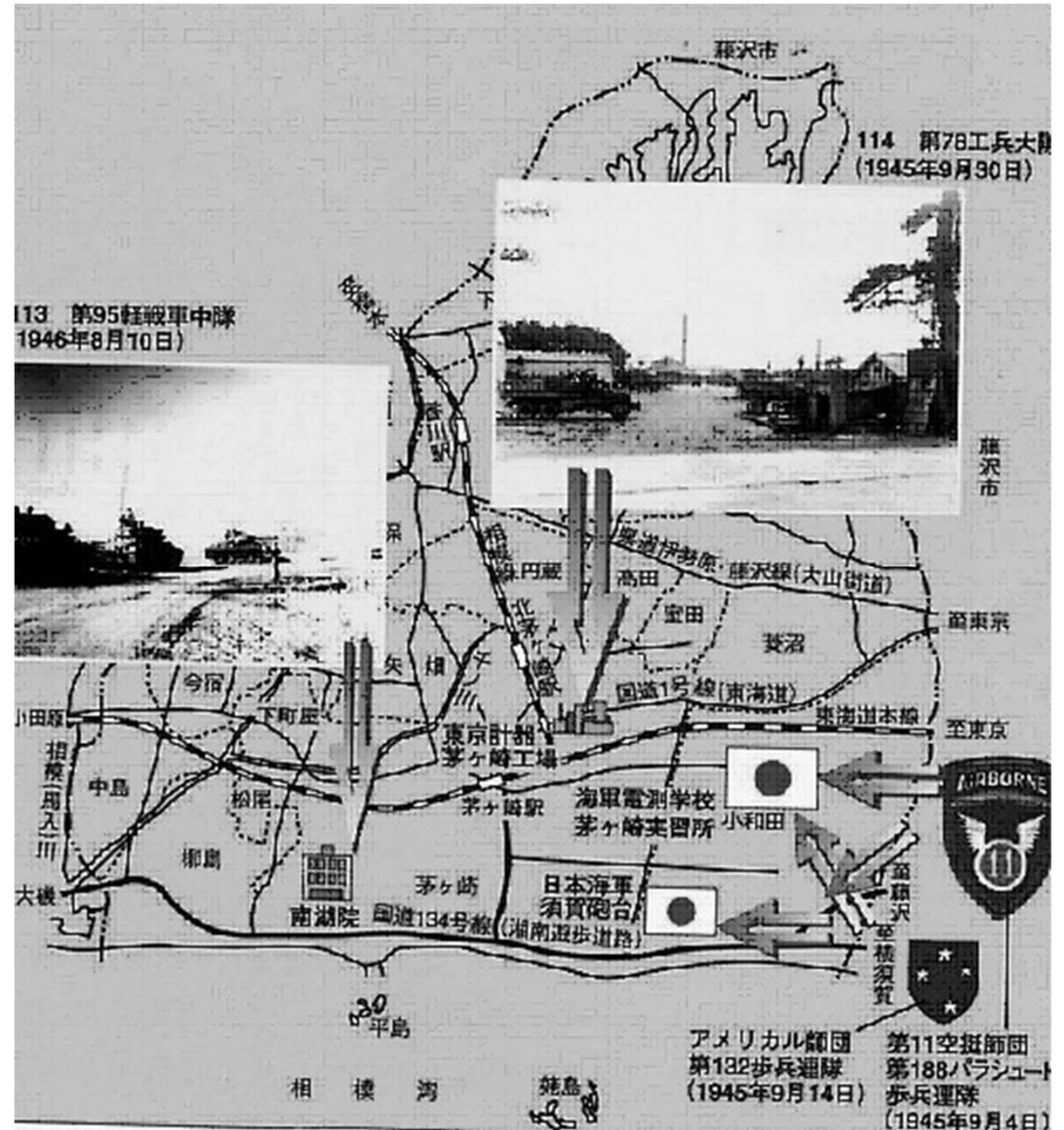


1945年6月23日、義勇兵役法公布



7、米軍進駐

1945（昭和20）年8月、日本はポツダム宣言を受諾、連合国に降伏し、日本は連合国軍の占領下におかれることになる。しかし、同時それは新たな時代の始まりであった。





湘南沖の米艦上から富士を見る海兵隊員、1945年8月28日



第78工兵大隊



第95軽戦車中隊



第95軽戦車中隊の兵士と少年たち

(第95軽戦車中隊)

新しく編成された中隊の任務は、東京、横浜一帯や周辺地域における暴動、暴力的事態に対して緊急措置がとれるよう戦車隊の訓練を受けることであった。割り当てられた宿舎周辺地域は、最も基礎的な戦車訓練以上のことには、全く不適であった。より適した地域を選定する許可が、1946年6月におりた。訓練により地形をそこなう危険がある場所は避ける必要があり、選定にはかなりの時間を要した。適当な訓練地域は、復旧可能な宿舎と指定距離にある茅ヶ崎近くの海岸に設けられた。準備が整い、当地域は、1946年6月12日に開始された将校1名と12～35名の下士官兵からなる分遣隊の活動によって居住可能となった。健康と安全に十分気を配った新住居は、1946年8月5日にほとんど完成した。総力は166名である。新駐屯地の地域は、1946年7月17日付物品調達要求書KNGC1845により保証された。

(「第95軽戦車中隊部隊沿革」より)

- 中隊は、1年を通して次のようなクラブを経営した。「将校クラブ」「タンカーズ・イン」「下士官兵クラブ」。「下士官兵クラブ」「下士官クラブ」は、11月、12月の間に多額の出費で再装飾された。12月22日に、茅ヶ崎の貧しい子供達、主に孤児のためにクリスマスパーティが開かれた。これらの子供達に贈られたプレゼントやキャンディは、中隊の将校や士官、そして茅ヶ崎市民からの寄付によってもたらされた。中隊は、自隊の図書館を交換を基本として経営した。また映画館を経営し、12月には新しい座席を設置した。
- 中隊は、敷地内に小さなプールを所有している。より大きなプールと海水浴場は、歩いていける距離の平塚海岸にあった。中隊は、12月にPXの一部に2レーンのボーリング場を開いた。中隊には強い硬式・軟式の野球チームがあり、キャンプ・マックギルで試合した。フットボールチームも組織されたが、中隊の野戦訓練への参加のため、2試合行っただけで中断された。

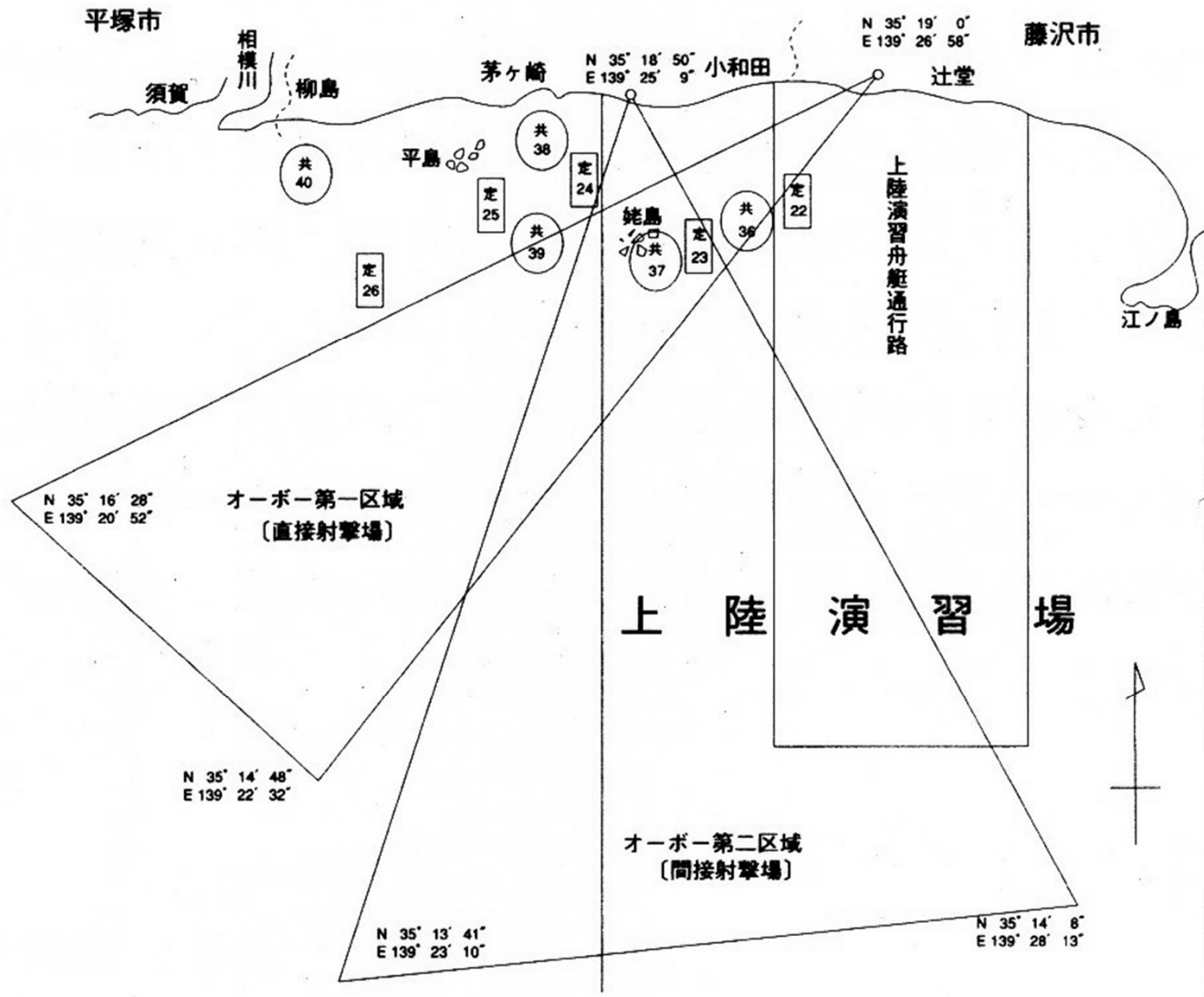
(「第71重戦車大隊A中隊沿革」)



旧辻堂演習場
所は米軍演習
場チガサキ・
ビーチとなっ
た。

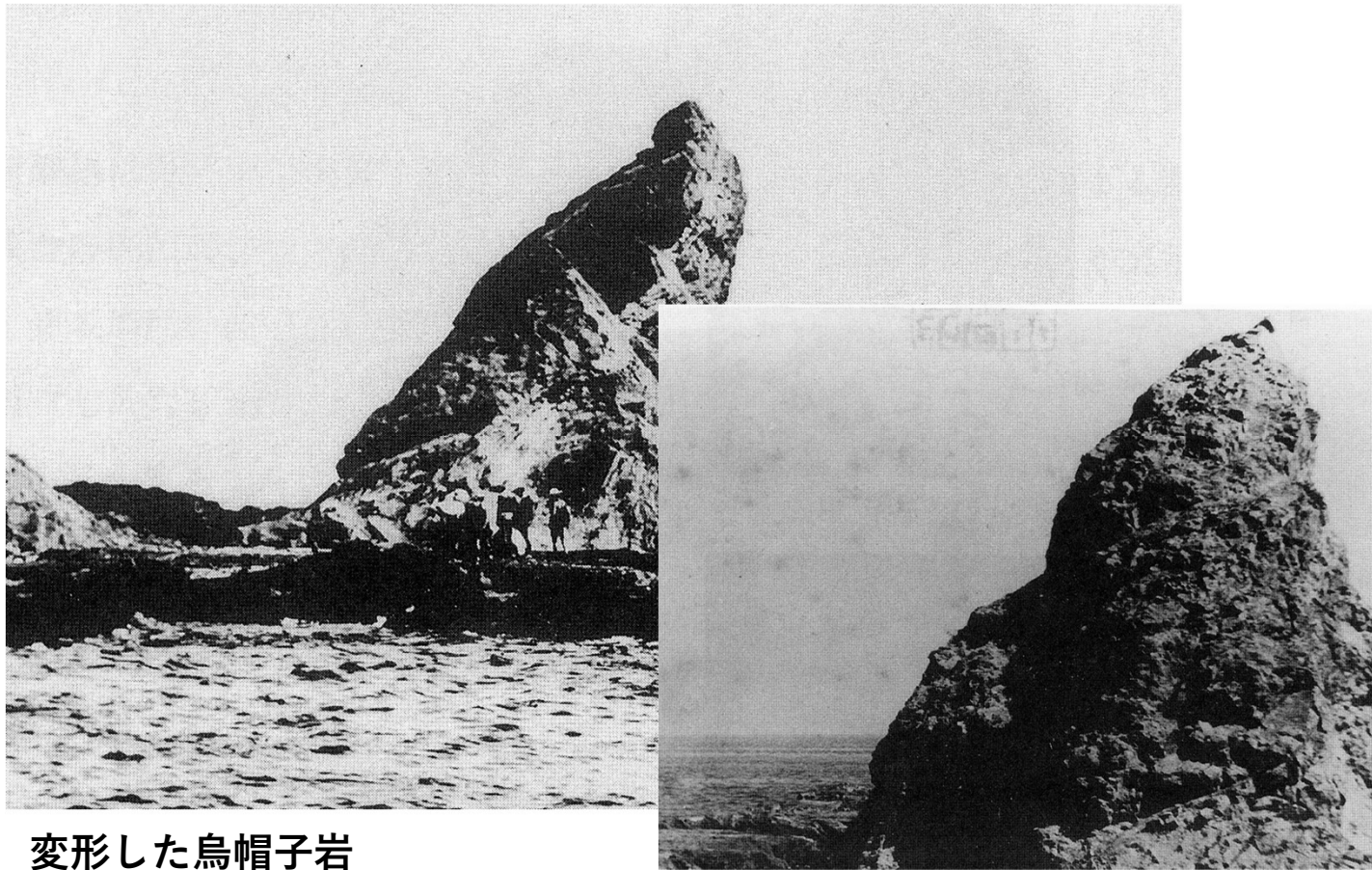


米軍撮影の「チガサキ・ビーチ」空撮図



「チガサキ・ビーチ」の範囲

演習は様々な被害をもたらした。



変形した烏帽子岩

占領時代、茅ヶ崎を舞台としたこういう事件もあった。

1951年（昭和26年）、米情報部キャノン少佐を長とするキャノン機関は作家の鹿地亘にソ連スパイの嫌疑をかけて長期間にわたり藤沢市内で拉致、茅ヶ崎の民家に監禁し、転向してアメリカの二重スパイになることを要求。



鹿地亘

8、朝鮮戦争と茅ヶ崎



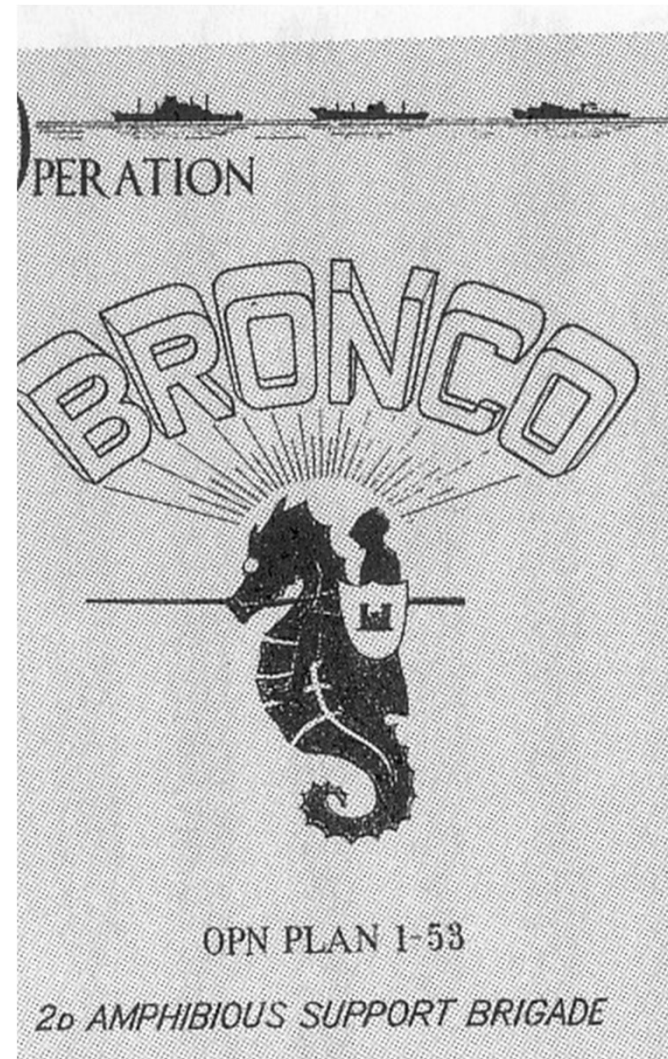
チガサキ・ビーチでの演習（1950年6月）





オペレーション・ブロンコ

第2 ASB旅団（上陸を支援する精鋭部隊、仁川上陸作戦にも参加、「チガサキ・ビーチ」での演習を統括）が中心となった。演習のひとつ、日本が東側陣営に占領された場合を想定しての、日本奪還演習。1953年1月実施。



核ミサイル配置も問題となった。

茅ヶ崎署と藤沢署署で原因を調査しているが、同煙突は極化工場内の塩化リンのガス煙突で、一酸化炭素と炭酸ガスを一分間

渡台海軍艦隊の艦隊のパイロットが飛び込んで引火のいずれかとみられ、同署から施設改善方を警告した。

演習地に茅ヶ崎海岸？ 原子ロケット砲隊到着

〔六三 神奈川〕 原子ロケット砲兵器の第一陣は二十二日夕六時横浜に入港した米船E・F・ルツケンバツハ号で到着。夜通しで荷揚げされた。昨夜着いた分はロケット砲の主体となる搭載車六台で、一台が十二トン四分の一というバカでかいトラックだ。またこの火砲に付属するレーダー、部品など四十三箱に納められて着いた。ロケットを飛ばすハシゴのような装架と問題の七百六十二ミリ原子砲はこの船にのっていないと横浜米軍港湾司令部の情報将校ははっきりい

隊、第二六一補給部隊は二十二日横浜に着いたG・アンダーソン号で到着した。こうして原子兵器による日本本土の米国防衛計画が着々と進むにつれて、まずこうした兵器を日本で一番先に手がける横浜港の船内人夫達の足もなんとなくこわばっているようだった。防衛庁は二十日付賞書ですでに米極東軍司令部からこの通報を受けていた。到着した第五野砲中隊はけん引車付ロケット発射機六基を装備、付属の第二六一補給部隊はロケットの技術整備に当るもよう

米極東軍司令部は二十二日オネスト・ジョン砲が先週末配属されたむね発表した。外務省では二十日米側からこのむね連絡があったことを明らかにした。しかしロケット砲の数、配属先については不明で、ハッキリしているのは原子弾頭をともなっていないことだけであると外務省ではいつている。

原子弾頭伴わない

〔六三 朝日〕 国鉄は旅各の便をはかるため九月一日から相模線の次の列車を気動車におきかえる。

国鉄相模線に 気動車に

来月一月から

〔六三 朝日〕 国鉄は旅各の便をはかるため九月一日から相模線の次の列車を気動車におきかえる。

成するに必要な兵器、備品、物質は数多くの船にわけられてのっており、米本国から続々横浜港に着くといっている。また第五野砲中

1959（昭和34）年6月ビーチは返還され、茅ヶ崎にとっての「戦争」は終わった。



黒いジェット機事件

1959年（昭和34年）9月、米軍戦略偵察機ロッキードU-2が藤沢に不時着。「黒いジェット機事件」として、国会でも問題化。当初、米軍も日本政府も気象観測機と弁明していたが、60年5月同型機がソ連上空で撃墜され正体判明。



湘南・茅ヶ崎もまた激動の20世紀世界史のなかにあった。

